

令和5年度第2回宮崎県スポーツ推進審議会 議事録

I 日程等

- 1 日 時：令和6年2月7日（水）
- 2 会 場：県庁本館講堂
- 3 出席委員：春山委員、木下委員、金川委員、内村委員、横山委員、古川委員、長尾委員、玉城委員、竹元委員、松田委員、鶴田委員、恵利委員、宮田委員、遠坂委員、西田委員（15名）

II 概要

1 教育次長あいさつ

2 議事

(1) 説明

ア 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会の概要及び進捗状況について（国スポ・障スポ準備課より説明）

(2) 協議

第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会の本県開催を契機とした本県スポーツの推進に向けた取組について

ア スポーツを「する」という観点から本県スポーツ推進に向けた取組について

発言者	発言内容
議長	○ スポーツを「する」という観点から本県スポーツ推進に向けた取組について、御意見、御助言をお願いしたい。意見のある方は挙手にてお願いしたい。
委員	○ 地元で総合型地域スポーツクラブをやっているが、小学校、中学校、高校など学校と連携ができるといい。他にも行政の障がい者スポーツを所管しているところや福祉関係課、社会福祉協議会など、様々なところと連携していきながら、スポーツの機会を提供するにはどうしたらよいのか、スポーツを実施する人を増やすためにはどのような形でやっていけばよいのか、情報を共有できるとよい。 ○ 横のつながりができたことで、自転車競技をされている方に総合型地域スポーツクラブを紹介することができ、一緒にイベントが行えた。こういったことが必要ではないか。スポーツを「する」ということについては、横のつながりが必要だということを感じている。
委員	○ 現在、子供たちに指導しているが、自分たち団体単位で何か開設するには特に厳しく、やはり横のつながりがどうしても必要

	<p>になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツを「みる」「支える」の部分で、スポーツの横のつながりをたくさんつなげるためには、スポーツのファンを作るべきだと思う。宮崎県もたくさんのプロスポーツを観戦する機会があるが、プロ選手ではなく、例えば宮崎県の各競技の国体に出るような選手をもっとピックアップしてファンを作るような活動をし、何かつながりをつくる、接点をつくるのが大事である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先ほど総合型地域スポーツクラブ単体だけでなく、学校や福祉等との連携が必要だという発言があったが、全くその通りだと思う。今、中学校の部活動の地域移行の問題があり、中学生のスポーツの機会が奪われかねないような状況にある。 ○ 現状として、クラブチームや総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団など、いろいろな地域の方がいるが、圧倒的に指導者の数が足りていない。このまま本当に学校が地域に丸投げしてしまうと、子供たちがスポーツの機会を失ってしまう可能性があることを一番危惧している。まず学校がしっかりと子供のスポーツの機会を確保し、学校で部活動を運営する。そして少年団やクラブチーム等と連携をしながら、地域全体で中学生のスポーツ機会を確保していくという取組が、今後必要なのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ やはりスポーツを活かした地域づくりが一番大事ではないか。子供たちに国民スポーツ大会をどう関連付けるか、国民スポーツ大会を契機に地域づくりを進めていかないといけない。 ○ 大会が終わった後も、大会で生まれたつながりというのをどう構築するかが課題になってくる。各市町村で競技は実施されるので、各市町村で地域づくりについては、地域学校協働本部があり、そこと連携した地域づくりというのが望ましい。総合型クラブやスポーツ少年団、学校などが、市町村の地域づくりについて議論していくこと大切である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動の地域移行の協議会を実施した。その中で部活動推進に向けて話合いがなされたが、今ある部活動もそうだが、スポーツをいかに楽しんで行えるかという意見もあり、いろいろなスポーツの楽しみ方があるという意見もあった。競技を極めていく楽しみ方もあるが、部活動に所属していない子供たちも楽しみとしてスポーツをする、「競技力を高めること」や「楽しみ」、この両面で子供たちに対し、いかにスポーツに親しませるかという視点が大切である。 ○ 国民スポーツ大会の実施競技を市町村のスポーツの核としていかに広めていくか、実施競技をとおして運動の基本だとか楽しみを覚え、人づくりや町づくりにつながるように浸透していけばよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本レクリエーション協会からは、学校の部活動をレクリエーション

	<p>ョン協会にも担ってほしいという案内が出ている。協会としても地域に根ざすということで、福祉関係者、社会福祉協議会ともこれまで一緒にやってきたが、これからも楽しむ、心が温まるスポーツでなければいけない。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共生社会を目指すということで、スポーツをとおして居場所をつくる、スポーツを楽しむことで居場所になる。 ○ ねんりんピックというのがあり、全国大会まであるが、子供もシニアも障がい者もみなさんが生涯スポーツとして楽しんでいて可能性がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ いよいよ3年後に迫ってきたのだなと感じている。その中で感じるのは、つながりである。スポーツをとおしていろいろな団体や人とのつながり、これが障がい者スポーツにも非常に大事である。 ○ 先日、ある市で小学生にボッチャ競技とフライングディスク競技の体験会を行った。子供たちは初めて障がい者スポーツに触れた子が多かったが非常に盛り上がった。パラスポーツ指導員や大学の学生、そして県障がい者スポーツ協会の指導員が一緒になって指導を行った。障がい者スポーツとしては、そういうつながりを大事にしていきながら理解を進めていきたい。 ○ 体験会が終わった後に、将来ボランティアをしたいという子供もおり、「ささえる」にもつながっていると感じた。子供の可能性っていうのは「する」だけではなく、「ささえる」側にもまわれるのだと実感した。 ○ 昨年度から障がい者スポーツ協会と一般競技団体で協力して、「共生スポーツ大会」を実施している。そういうつながりが始まり、競技団体の方々も力を入れながら、障がい者が参加できるような形ができつつある。こういう大会が自然とでき、これが国民スポーツ大会・全国障がい者スポーツ大会を終えた後の持続可能な社会につながっていくのではないかな。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障がい者スポーツにいろいろな方々が参加していただくことも大事だが、障がいのある方々の参加率もすごく大事である。さまざまな練習会に参加しているが、実感として障がいのある方の参加率が低くなっていると感じている。保護者の方々もやはり高齢化してきており、周りのボランティアの方々も高齢化が進んでいてどんどん規模が小さくなっているという種目が出てきている。 ○ 学校関係者の委員の中に、特別支援学校の先生にも入っていただき、将来、スポーツをとおして共生社会を目指すのであれば、障がいのある子のスポーツの場をもっと知ってもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鹿児島国体で、鹿児島県に行ったが、商店街の方々も今年はお客さん来ると言って頑張っており、毎月のようにイベントをや

	<p>っていた。お店の方々もお客さんが来るから嬉しそうにしており、スポーツだけでなく、本当に町全体とか商店街とかいろんなカテゴリーがつながっていくと感じた。</p> <p>○ 地域住民とか主婦だとか、いろいろな人達と会話をして、国民スポが始まるねという話はあまり出てきていないようにも感じる。スマホや SNS でいろんな情報を取り入れている世代は情報を得ているが、全体が国民スポーツ大会を楽しむとか盛り上げるっていう視点にもっていくためには、横のつながりだったり、継続していくことだったりが必要になる。</p>
委員	<p>○ 保護者が運動をする習慣のある家庭の子供は、運動をすること、スポーツを見に行くことが、家の中の当たり前になっており、そういう子供たちは小さい頃から自然とスポーツというものに対する親しみがある。しかし、保護者にもインドア派で、ずっと動画を見たり、ゲームしたりという方もいて、子供がずっと家にいて同じ景色の中でなかなか刺激を受けられないということも聞く。子供がどのような家庭で育っても、その運動に親しんだりスポーツを見たりという機会が作れるといい。</p> <p>○ 近所の総合型地域スポーツクラブがとても熱心に幼稚園に関わっている。近隣の堤防と一緒に整備して子供が遊べるようにするとか、お花を見て一緒に摘みながら散歩できるようにしようとか、子どもたちが外へ出て沢山歩いたり動いたり、お散歩できたりという機会を作ってくださっている。その関係性の中で総合型地域スポーツクラブが実施している教室の情報を発信し、保護者の方に参加してもらおう。そうすることでなかなか体を動かす機会がなかったり、行くのはちょっと勇気がなかったりする保護者も、幼稚園からのお知らせならちょっと行ってみようかとなり、行った時に心地が良かったと思うと、さらに続けようとなる。</p>
委員	<p>○ 観光の観点から、県のスポーツランド推進室とスポーツ関係の皆様と連携しながらアマチュアスポーツの大会や新たな合宿の誘致に取り組んでいる。アマチュアスポーツの合宿支援については、10泊以上で1人1泊1000円、上限10万円助成などがある。こういった取り組みを踏まえ県民のスポーツ推進に少しでもお役に立てればと思っている。</p>
委員	<p>○ なぜ運動をするかを考えると、働く世代などは、デジタルやスマホなどは得意な方だと思う。その中で運動のよさを医学的なところからメリットを知らせるような啓発を行うとよい。医療を巻き込んで啓発していくと参加するのではないかな。</p>
委員	<p>○ 例えば、スポーツを推進しようとしている方々が、実際に運動をやっているのかということも重要になる。そこを知らないと運動の気持ちよさや、何が必要なのか、どういうところが足りないのかという課題が分かりづらいのではないかな。推進する立場の人たちが、忙しいからできないということになってしまうと、他の</p>

	<p>人も忙しいからできないということになってしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 企業や会社の空き部屋に機材を置いて休憩中に運動ができる仕組みを作るなど、自分たちも実際に運動して自分たちからそういう姿を見せていくことも、もしかしたら「する」につながっていくのではないか。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 貴重な御意見ありがとうございました。

イ スポーツを「みる」「ささえる」という観点から本県スポーツ推進に向けた取組について

発言者	発言内容
議長	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツを「みる」「ささえる」という観点から本県スポーツ推進に向けた取組について、御意見、御助言をお願いしたい。意見のある方は挙手にてお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツランド宮崎といっている宮崎県だが、アマチュアスポーツもしくは中学校、高校の試合のテレビ中継が少ないと感じる。中体連や高校総体の中継をすることで、県民が「みる」機会を創出できるのではないか。競技をたくさん知らせることによって、知らなかった魅力を感じることもつながっていくのではないか。 ○ 「ささえる」では、国民スポーツ大会が終わった後に選手の活躍の場や、競技力を維持するための設備などの予算を確保する必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鹿児島国体を視察して、スケールの大きさと、競技を応援している地元の人々の「みる」「ささえる」熱気を感じてきた。これを自分たちの町で行えるうれしさを感じた。 ○ 市町村それぞれで競技を盛り上げるために進めているが、市町村によって規模が異なり、小さな市町村だと運営面のスキルがなかったりすることもある。ボランティアの集め方や補助の面も含めサポート体制があると助かる。宿泊施設の面でも競技種目の日程の重なりなど検討していただけるとありがたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツをとおして、人の役に立っていると、ちょっと人と関わっていると、そういうところで生きがいになる。例えば、高齢者でスポーツを見る機会がなくなってきた方々は、車の移動が問題になっていることも考えられる。送迎のシステムなどができあがると、そういった方々の観戦する機会も増えるのではないか。 ○ 食事と運動と睡眠というところで、食のサポートなど支えるところで意外とたくさんあるのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ これからボランティアの要請、役員の要請、補助員の要請が急激に進んでいく。この方々はものすごく大きな経験をすることになる。支える側がたくさん生まれるわけなので、市町村でどう活

	<p>かしていくのか、大会後にどのように地域の中でつながっていくのが重要でもある。</p> <p>○ 障がい者スポーツの全国大会では、ボランティアの学生や県職員の方が、選手とずっと一緒に行動するので、障がいのある方との接点ができる。それが財産となって学生は次に何かをやるという気持ちになる。「ささえる」というところからそういう人材をつくっていくことにも焦点を当てていくと大会後にも大きな財産になる。</p>
委員	<p>○ 今、共生社会に向けて、県スポーツ振興課、福祉課、県スポーツ協会、医療関係者の方などと一緒に障がいのある子供とのスポーツ教室を実施している。「ささえる」という観点から言えば、そういう環境を提供できるということ、宮崎大学の先生や健康運動指導士の先生などとも障がいのある子供たちをどういう形でサポートできるか話をしながら進めることができている。少しずつ次の段階に進んでいこうと模索しているところである。</p>
委員	<p>○ デモンストレーションスポーツでも知らない種目があり、「みて」「ささえる」ためには、そのスポーツを事前にある程度知識として知っておく必要があると感じた。できたら体験もできるといい。そうすると、それに対する応援やボランティアをしようかなという県民の方の心が変わっていくことになる。</p> <p>○ 知らないようなスポーツや、あまり選手層が厚くないスポーツも学校や地域での活動の中で体験をして、自発的に支えていくような雰囲気を作っていければよい。</p>
委員	<p>○ コロナ禍で子供たちの試合が全く見られなくなったときに発達したことが、アプリを使って試合を観戦することだった。これだけデモンストレーションなどの種目があるので、小学校やパブリックビューイングなどで企画をしながら見られたら面白いのではないか。</p> <p>○ 先日、熊本県の方で BMX やスケートボードの競技施設ができることが発表された。半導体工場と一緒に街づくりの一環として整備されるようで、宮崎県内でもそういった街づくりと連携しながらスポーツができる場所を整備する必要があるのではないか。</p>
委員	<p>○ 家族で楽しめるという視点があるといい。家族で楽しめて子供が楽しめて、そのためにトイレの案内だったり、授乳室のことだったり、ホームページを見れば分かるようになるといい。</p>
委員	<p>○ PR キャンペーンで各市町村を実際にまわっていくという PR 作戦などはできる。皆さん盛り上げるためのささえるという点では、口コミで広げていくような PR 活動ができたらいい。</p>
委員	<p>○ 学校では中学生も先生方も国民スポーツ大会などにそこまで関心が高くないというのが現状である。「ささえる」という面でも国スポ・障スポへの関心をもたせるための手立てが必要だと感</p>

	じている。 ○ ボランティアとして中学生がそこに参加し、いろいろなスポーツを見て関心を持ってくれば、その体験がきっかけづくりになるのかと考えている。
議長	○ 貴重な御意見ありがとうございました。

6 閉会